

2024 年度 高等学院同窓会学術研究奨励金  
研究成果報告書概要（WEB 公開用）高等学院 長  
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [ 西野亮祐 ]

学年・組・番号 [ 3 年 I 組 14 番 ]

研究課題： 近代対馬の朝鮮半島との関わりの歴史に関する研究

(英文) A research on the history of the relations between Tushima and Korea in the modern period

## 研究概要：

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について 200～400 字で記入してください)

対馬はその地理的特性から、古来より日朝の交流において日本の最前線として重要な役割を果たしてきた。しかし、現在の対馬で朝鮮半島の文化的影響が感じられる場面は多くない。そこで文献調査を行い、現代の対馬で朝鮮半島の文化的影響が感じられないのは近代以降の対馬において「境界」の島としての役割が薄れたことが原因なのではないかと考えた。そのため本研究では、近代の対馬、その中でも近代の対馬と朝鮮半島の関係に焦点を当てて研究を行う。具体的にはまず、文献調査を通して 3 人それぞれが近代の対馬に関する論点を定め、研究を行う。その研究の過程で夏期には実際に釜山や対馬への巡検を行い、島民への聞き取りや、釜山近代歴史館や対馬朝鮮通信使歴史館、対馬博物館での資料収集を行う。その後それぞれが研究の成果をまとめた上で共有し、それぞれの研究成果を踏まえて、近代の対馬と朝鮮半島の関係について論じる。

## 研究成果：

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について 200～400 字で記入してください)

西野は対馬要塞の成立過程から対馬が列強諸国の脅威にさらされる過程で国防上重要だと認識されたことを明らかにし、佐野は安徳天皇陵墓参考地の成立経緯から宮内庁は陵墓が確定しており議論の余地は無いとするべく工作を行う一方で調査を続ける意向があったという矛盾を明らかにし、溝内は近代的な祭りは参加者と観客の線引きが個々でははっきりしているが全体では曖昧であるという 2 方向性を論じその上で厳原港まつりはそれが取り入れられているため持続可能な祭りとなっていることを明らかにした。この結果を踏まえて考察を行い、近代において変化した対馬と朝鮮半島の関係が現代の対馬の日本的な空間を形成していること、またそうした近代の関係性の変化が生み出した現代の問題は、祭りを通した交流が解決の糸口になり得ることを明らかにした。この研究成果の一部は外部の論文コンクールに応募した本校学芸発表会や対馬学フォーラムでの成果報告を行った。

研究者：(以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 3 年 I 組 西野亮祐

研究分担者 3 年 A 組 佐野悠真 3 年 K 組 溝内利音

担当教諭 柿沼亮介 (受給額: 26000 円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名が WEB ページ上で公開されることに同意します  
(次のページに続きます)

**研究成果写真：**

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)



以上